

細井平洲

江戸時代最大の学者

東海市民の誇り



ほそ い へい しゅう 細井平洲のおいたち



平洲は、江戸時代の享保13年(1728年)6月28日、尾張の国知多郡平島村(現在の愛知県東海市荒尾町)の農家の次男として生まれました。

平洲は、後年になって名のつた号(ペンネーム)で、名前を崑三郎としました。

8歳のときから、近くにある加家村(荒尾町)観音寺の義観和尚について学びました。雨のふる日も、風の日も、雪の日も休まずかよいつづけて勉強しました。和尚さんは、いっしょうけんめいに勉強する平洲をみて、りっぱな先生について学ばせようと思い、両親に相談して名古屋へ出て学ばせることにしました。

16歳のときに学問をするため、ひとりで京都へ出ました。平洲はみなりかまわずそまつな部屋で、いっしょうけんめい勉強にはげみました。子供ひとりを京都へ出した両親は、いろいろ心配して、あるとき京都へようすを見に出かけました。両親は、平洲のくらしぶりを心配して、からだをこわさないでくらすようと、50両のお金をおいてきました。平洲はいただいたこのお金で数百冊の本を買い、その本を二頭の馬に山とつんで、なつかしのわが家へ帰り、この本を読みつづけました。

17歳で名古屋の中西淡淵の塾に入り、18歳のときに中西先生のすすめで、遠く長崎に行き、中国人について中国語を3年のあいだ学びました。

こうして学問をつみかさね、24歳のとき江戸(今の東京)へ出て、嚶鳴館という名前の塾を開きました。ここで多くの人たちを教えるとともに、中国の古い書物の研究書などを出し、りっぱな学者として知られるようになりました。そして、西条(愛媛県)・人吉(熊本県)・紀伊(和歌山県)・郡山(奈良県)の各藩の学問の先生としてむかえられました。

明和元年(1764年)、平洲が37歳のときに米沢藩(山形県)の藩主となる当時14歳の上杉治憲(鷹山)の先生にむかえられ、平洲は全力をそそいで教育にあたりました。鷹山は17歳で藩主になると平洲の教えを実行して、人づくりをとおして農業や産業を振興し、窮乏を極めていた藩財政を一代で立て直し、名君とうたわれました。平洲と鷹山の終生かわらぬ師弟の交わりは、今でも人びとに語り継がれるほど深いものでした。

安永9年(1780年)、平洲は尾張藩(愛知県)9代目の殿様である徳川宗睦の先生にむかえられました。尾張藩の学校である明倫堂現在の明和高校の前身をつくるときには学長となり、おおいに学問を広めました。また、各地で講演会を開き社会教育にもつくしました。

ある、夏のあつい日のことです。魚屋が門前に魚かごをおいたまま、平洲の話の聞きました。先生の熱心な話に、時のたつのもわずれて外に出たときは魚がくさって売れなくなりましたが、魚屋は、「きょうはいつもよりもうかった」と、よるこんで帰ったということです。

平洲は、自分の学んだことをだれにでもわかるように説き、話のなかで人はたえず学び、得たことを世の中に生かすことの大切さを教えました。

こうして平洲は、一生のあいだ学問をつみかさね、多くの人たちを教えて人からもやさしく、みんなにわたされました。

平洲は、享和元年(1801年)6月29日、江戸でなくなりました。74歳でした。お墓は、東京浅草の天獄院というお寺にあり、東京都の旧跡(文化財)に指定されています。

細井平洲は、政治や教育事業の指導者として時代に大きな影響を与え、江戸時代最大の学者のひとりとして尊敬されました。



●細井平洲肖像
東海市立平洲記念館蔵

東海市内の 細井平洲ゆかりの地



18 平洲先生誕生地の石碑
明治の評論家徳富蘇峰の書いた「細井平洲先生誕生地」の石碑が、聚楽園駅前にあります。



8 如来山の碑
ここに如来山があったことを示す石碑が建てられています。



8 如来山
平洲がこよなく愛した山で、平洲には如来山人という号もあります。



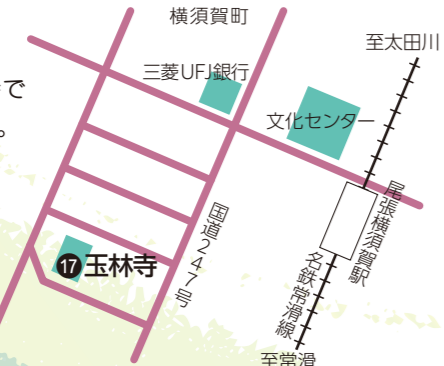
18 学思行モニュメント
平洲の教えを記したモニュメントが建てられました。



10 細井平洲説明板
加家公園の花の小径に、平洲のおいたちや業績をしるした説明板が4基あります。



17 玉林寺
天明3年(1783年)10月、この寺で平洲の講演会が開かれました。



7 加家公園(学びの広場)
公園内に平洲の一生を紹介する説明板があります。展望台からは伊勢湾を望め、平洲が愛した如来山からの眺めを楽しむことができます。



9 加家公園の平洲像
加家公園の花の小径に、学問のため長崎をめざして郷里を旅立つ、石田武至作・ブロンズ製の「若き日の平洲像」があります。



16 細井平洲・上杉鷹山対面の像
平洲3度目の米沢行の折、鷹山が郊外の関根まで迎えに出向き、2人が再会した場面を再現したブロンズ像です(工藤潔作)。同じものが米沢市関根の普門院にもあります。



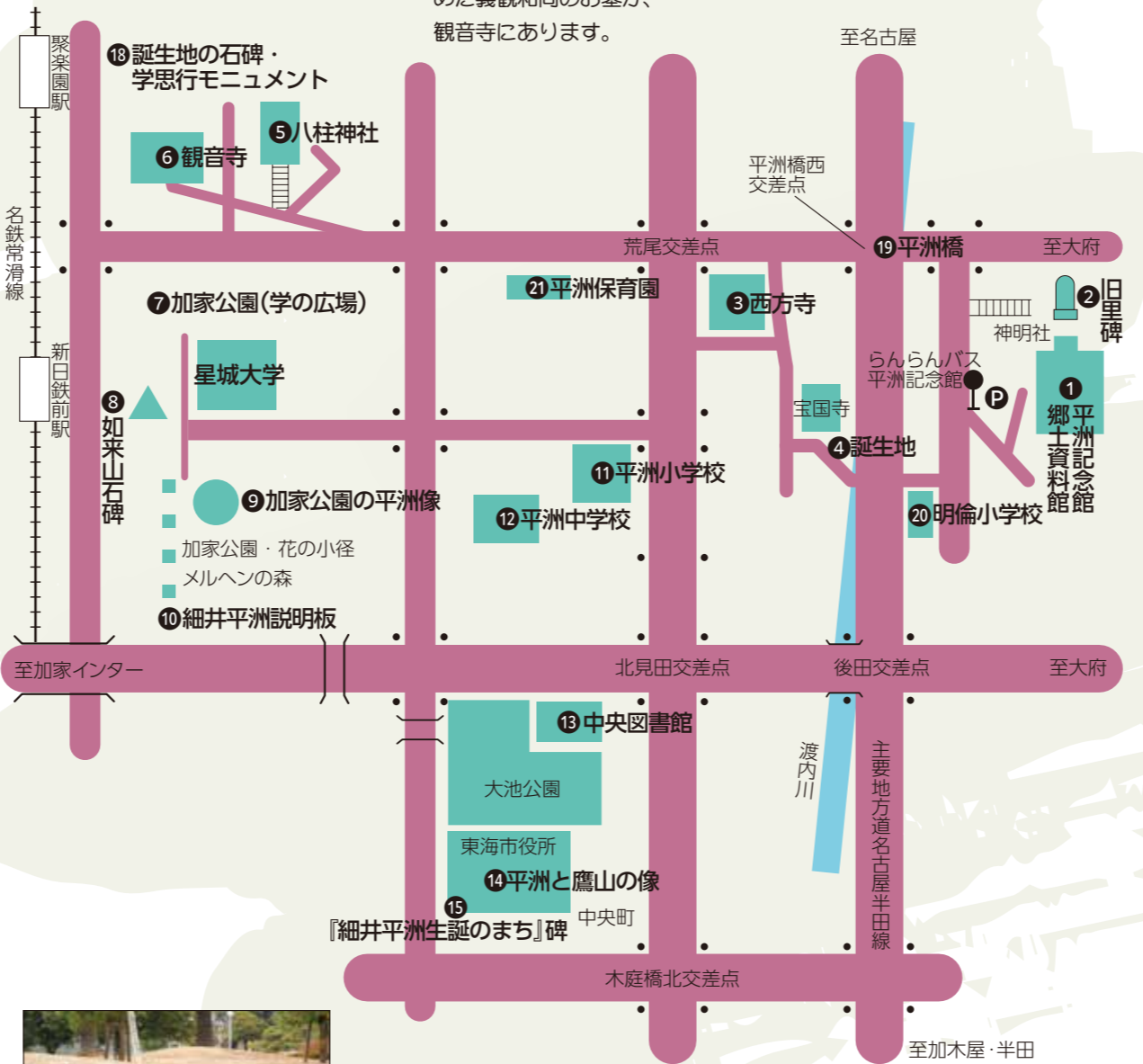
6 観音寺
平洲がかよった寺子屋。この義観和尚について学びました。伊勢の海を望み、大変景色の美しいところでした。



6 義観和尚の墓
平洲の才能を最初に認めた義観和尚のお墓が、観音寺にあります。



5 八柱神社
平洲の誕生地の平島村を含む荒尾七ヶ村の氏神様で、天明元年(1781年)平洲が灯籠を寄進しました。



15 『細井平洲生誕のまち』碑
平成元年(1989年)に東海青年会議所と米沢青年会議所の友好記念として「伝えよう先施の心・細井平洲生誕のまち」の石碑が市役所に建てられました。



1 平洲記念館
東海市民の誇りである細井平洲を称えるために建てられました。



1 平洲記念館の平洲像
平洲記念館の玄関に、平洲の像があります。小田寛一作で、現在はコンクリート製の二代目です。



5 平洲寄進の灯籠
尾張藩に仕えた時に、八柱神社に灯籠を寄進しました。本殿の右横にあります。



3 西方寺
荒尾町にある細井家の菩提寺。ここで毎年、平洲をしのぶ平洲祭が開かれます。



11 平洲小学校の平洲像
平洲小学校は平洲の名をいただく学校で、校庭に鈴木基弘作・ブロンズ製の平洲像があります。



1 平洲記念館展示室
平洲の手紙、書、画、著書をはじめ上杉鷹山関係の資料が展示されています。

21 平洲保育園
平洲の名をいただく保育園です。かつて平洲文庫があったところです。

19 平洲橋
平洲の誕生した旧平島村の東に流れる渡内川にかかる橋が平洲橋です。



3 細井家のお墓
西方寺に平洲の先祖、両親、兄弟夫婦のお墓があります。



12 平洲中学校の平洲像
平洲中学校は平洲の名をいただく学校で、校庭に肥田豊作・陶製の平洲像があります。



13 中央図書館の平洲像
中央図書館の玄関に片岡静観作・陶製の平洲像があります。

20 明倫小学校
平洲が初代の校長として藩学を大いに振興した尾張藩校明倫堂の名をいただく小学校です。明倫保育園も同じです。



2 細井平洲先生旧里碑
平洲が亡くなったあと、尾張藩の門人らが業績を刻んだ石碑を建てました。東海市指定の文化財。



4 細井平洲先生誕生地
荒尾町の宝国寺の前に平洲の生家がありました。現在は誕生地として石碑が建てられています。



14 平洲と鷹山の像
東海市と姉妹都市である米沢市の交流発展を願い、寄贈されました。御影石製です。

東西南北の人・細井平洲

その業績と足あと

東北



上杉治憲 (鷹山)
上杉米沢藩の第9代藩主。平洲の教えを実行して、窮乏した藩財政を一代で立て直し名君とうたわれました。アメリカのケネディ元大統領が最も尊敬する日本人として挙げた人物です。



『鷹鳴館遺稿』
上杉鷹山の師、細井平洲の漢文体遺稿集。上杉鷹山が神保蘭室等に命じて編集させ、文化5年(1808年)に刊行されたものです。版木が米沢市上杉博物館に所蔵されています。



出羽米沢の神保蘭室
米沢藩士で、17歳の時に江戸に上り鷹山の学友となり、鷹山が家督を継ぐと平洲の鷹鳴館に入って勉強し、27歳で塾長となりました。興譲館が落成すると提学に任じられ藩学を振興しました。

幕末の志士吉田松陰
幕末の思想家で、長州萩に松下村塾を開いた吉田松陰は、平洲の『鷹鳴館遺稿』を読み、「読めば読むほど必ず力量を増す」とほめたため、友人や弟子に読むことをすすめました。

備前岡山藩の井上仲龍
平洲は岡山藩の儒者、井上と親交がありました。

九州



長崎
平洲は18歳のとき、中国語を学ぶため長崎に行きました。そこで中国人の通訳、陳氏について中国語を学びました。また、中国人で南画の大家の伊孚九や書家の重宜一らと親しく交わりました。



長崎の崇福寺
この寺で、書家の重宜一が中国に帰るに際し、平洲の詠んだ詩があります。

長崎の飛鳥子静
長崎の資産家で、平洲の長崎遊学時代からの親友。

長崎の小河仲業
平洲が長崎遊学中に知り合い、終生変わらぬ親交を結んだ長崎の人で、仲業の死後、平洲はその子どもたちをわが子のように育てました。

肥後人吉藩 (熊本県)
藩主相良藩将は平洲に師事しました。そのあとを継いだ長寛は、平洲の指導により藩校習教館を創立しました。

人吉の東白髪
人吉藩の人。藩主の命により江戸へ出て、平洲について学び、藩校習教館の初代館長となりました。



郷義館の額
人吉藩校習教館創立の翌年に城内に武館の郷義館を建てて、平洲の書いた額を掲げました。

筑前久留米藩 (福岡県)の榊島石梁
久留米藩の儒臣となった榊島石梁は、平洲の高弟でした。

豊前中津藩 (大分県)の倉成善彌
藩校進修館の教授であった倉成は、平洲と親交がありました。

熊本の秋山玉山
平洲の親友。熊本藩の儒者。熊本藩主細川重賢の信任が厚く、藩校時習館の開校とともに提学(校長)となりました。平洲の発行した『鷹鳴館詩集』に序文を書いています。

薩摩藩士の赤崎彦礼
平洲の教えを受けました。

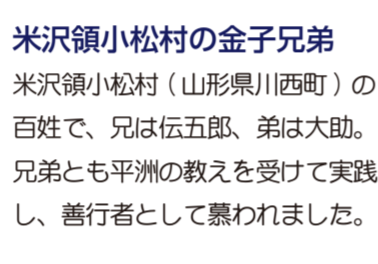
沖永良部島
薩摩藩主島津久光によって、沖永良部島に流された西郷隆盛は、平洲の『鷹鳴館遺稿』を読み、感動のあまりその3冊を写して、世話になっていた村長らに与えました。



米沢藩校興譲館の額
平洲の指導のもとに再興された藩校で、平洲が興譲館と名づけた。興譲とは「譲に興る」とよみ、譲り合う生き方が徹底すれば必ずその国は栄えるということです。山形県立米沢興譲館高等学校所蔵



友于堂の額
平洲の書いた友于堂の額。友于堂は興譲館の一部で、一人で学習のできるようになった者を対象に読書や習字を教えました。



米沢藩の神保蘭室
米沢藩士で、17歳の時に江戸に上り鷹山の学友となり、鷹山が家督を継ぐと平洲の鷹鳴館に入って勉強し、27歳で塾長となりました。興譲館が落成すると提学に任じられ藩学を振興しました。



長州藩 (山口県)の滝鶴台
毛利侯の儒臣で、平洲と親友であった。石田(防府市)で郷学の教育にあたりました。写真は鶴台の妻、竹の誕生地碑です。



京都
平洲は16歳で京都に遊学しました。求める師には出会うことができずして、有栖川宮親王に和歌を学んだりしました。京都で書物を買求め、郷里平島村に帰り一生懸命勉強しました。

伊予西条藩 (愛媛県)
伊予西条藩松平頼淳(後に紀州藩主となる)は平洲を尊敬し、藩士を鷹鳴館で学ばせました。平洲は藩主、門下生を通して西条藩の教育を指導しました。鷹鳴館で学んだ上田雄次郎が、平洲の和文の遺稿集である『鷹鳴館遺稿』の原文を書きました。

大坂の中井竹山
4代懐徳堂主となり全盛時代を築いた人で、平洲と親交がありました。

紀州藩 (和歌山県)
藩主徳川治貞は西条藩主の時より平洲に師事し、本藩の紀州藩主となってからも平洲を招いてその教えを受け名君と称えられました。



長科松伯
米沢藩主の侍医で、窮乏にあちいつた藩を立て直すため力をつくり、藩主となる上杉鷹山の師に細井平洲を推薦し、若き藩主鷹山の指導をゆだねました。

『友于堂』の額
平洲の書いた友于堂の額。友于堂は興譲館の一部で、一人で学習のできるようになった者を対象に読書や習字を教えました。



普門院の平洲手植えの椿(平洲椿)
普門院の境内に、平洲が植えたという椿が残されています。日本ツバキ協会により優秀古木ツバキに認定されています。

出石
平洲は出石藩(兵庫県)主の仙石侯に江戸屋敷で講義をし、藩学を振興しました。

尾張藩校明倫堂跡
第9代藩主徳川宗睦によって天明3年(1783年)に再興された藩校で、平洲が初代の管学(校長)に任命されました。この藩校は、現在の愛知県立明和高等学校に連なります。

尾張の起首
現在の愛知県一宮市。この庄屋である加藤磯足は平洲に入門し、木曾川普請の難工事に取組みました。ここで平洲の講演会も行われました。

明倫堂の聖堂
尾張藩校明倫堂の聖堂が、岐阜県羽島市福寿町の永照寺本堂となって残っています。

美濃郡上藩 (岐阜県)
平洲は、郡上藩世継ぎの金森臺賢とも交わりがありました。

美濃郡上藩 (岐阜県)
平洲は、郡上藩世継ぎの金森臺賢とも交わりがありました。

美濃郡上藩 (岐阜県)
平洲は、郡上藩世継ぎの金森臺賢とも交わりがありました。



米沢の松岬神社
上杉鷹山、直江兼統、鷹山の師細井平洲らを祭神とする神社です。



上杉鷹山公御廟
上杉家の御廟所にある鷹山公の御廟

敬師の里・関根の羽黒神社
普門院とともに神社の境内が、「敬師郊迎の址」として国の史跡に指定されています。



普門院の一字一涙の碑
鷹山が平洲をいたわりながら案内した様子を、平洲が門下の高弟である榊島石梁に書き送りました。神保蘭室がこの手紙を読んで「一字を読むごとに一涙がしたたり、あの日の平洲、鷹山お二人の御様子を思い出さないわけにはゆかぬ。」と批評した文に基づくという一字一涙の碑が境内に建てられています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。



敬師の里・関根の普門院
上杉鷹山は、恩師細井平洲の三度目の米沢来訪に際し、自ら城外二里余り(約10km)の郊外羽黒堂の地まで出迎え、普門院に案内して労をねぎらいました。普門院には平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。



細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

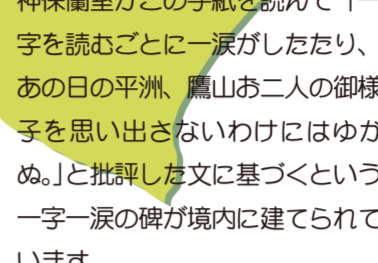
細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。



普門院の一字一涙の碑
鷹山が平洲をいたわりながら案内した様子を、平洲が門下の高弟である榊島石梁に書き送りました。神保蘭室がこの手紙を読んで「一字を読むごとに一涙がしたたり、あの日の平洲、鷹山お二人の御様子を思い出さないわけにはゆかぬ。」と批評した文に基づくという一字一涙の碑が境内に建てられています。



細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

細井平洲使用の諸道具
普門院には、平洲が休憩をとった部屋や諸道具が当時のまま残されています。

秋田藩の石井子文
角館の人で、益戸滄洲について学んだあと、江戸へ出て平洲の門人になって鷹鳴館で4年間学びました。後に角館に帰り教育事業に尽くしました。



養露館跡
上杉鷹山は35歳で隠居し、治広が藩主となりました。養露館(城南にあたる)は、鷹山隠居後の屋敷です。



仙島見物
平洲は上杉治憲の要請により米沢領内において指導にあたるため、明和8年(1771年)に米沢に行きました。そのおり、上杉治憲のすすめにより仙島へ旅行しました。

常陸水戸藩 (茨城県)
徳川光圀が「大日本史」編纂のために設立した彰考館の総裁となった。立原翠軒が平洲に学びました。

安房勝山藩 (千葉県)
中島郡刈安賀村(愛知県一宮市)の人で、平洲が少年のころより交わりを結んだ木村蓬菜が、安房勝山の酒井侯に仕えました。



細井平洲のお墓
東京都台東区浅草の天徳院にあり、東京都の旧跡に指定されています。

関東

上野高崎藩
平洲は、高崎藩(群馬県)主の松平侯に江戸屋敷で講義をしました。

上野国新田郡(群馬県太田市)の高山彦九郎
紀行家として有名な高山彦九郎も平洲の門人でした。

下総佐倉藩(千葉県)
平洲の親友であった洪井太室が、佐倉侯に仕えました。

平洲の江戸の住まい
江戸へ出た平洲は、はじめ神明町の借家に住んだあと、永井町、神田柳原(このころ塾を鷹鳴館と称した)、山伏井戸に住みました。

中部

越後三島郡(新潟県)の大森子陽
儒学において北越四大家の一人で、平洲に学んだ。良寛はこの子陽の狭川塾で学びました。

遠江の舞阪(静岡県)
平洲は江戸へ上る旅の途中に舞阪(静岡県浜松市)でよい竹材をみつけて笛を作りました。後にこの笛を紀州侯徳川治貞に献じました。

木曾福島(長野県)の山村蘇門
山村家は、代々木曾福島の御関所(中仙道)御番役で、蘇門はその第9代でした。名君として称えられ、平洲と交流がありました。東海市にある「平洲先生旧里碑」の題字は蘇門の書です。写真は山村代官屋敷。平洲が蘇門に宛てた書簡も展示されています。

美濃郡上藩(岐阜県)
平洲は、郡上藩世継ぎの金森臺賢とも交わりがありました。

知多郡古見村(知多市)の夏夏
夏は孝行者として、平洲にほめたえられました。



細井平洲関係年譜

備考：年齢は数え年

西暦	和 暦	平洲の年齢	区 分	こ と が ら	
1728	享保 13	1	幼年時代	6月28日、尾張国知多郡平島村(現東海市荒尾町)に生まれる。	
1735	〃 20	8		加家(荒尾町) 観音寺の住職義観(或は義寛、平洲の母方の伯父)に学ぶ。	
1737	元文 2	10		名古屋に出て、師について学ぶ。	
1743	寛保 3	16	修業時代	京都に遊学。目ざす良師を求めるものの得ず、ひたすら読書自習に努めた。	
1744	延享 1	17		京都から帰る。名古屋で叢桂社を開いた中西淡洲に入門した。	
1745	〃 2	18		淡洲の勧めで、中国語を会得して詩文学を大成するため、長崎へ赴く。	
1747	〃 4	20		母重体の報に接し、急ぎ尾張に帰るも、母はすでに逝去した後であった。	
1751	宝暦 1	24		夏江戸に赴き淡洲の叢桂社に入る。平洲、神明町に独立。	
1752	〃 2	25	苦悶期	淡洲病没(44歳)。淡洲塾の門人の多くはこの後、平洲の下に移った。	
1753	〃 3	26		柳原へ移居し、私塾を嚶鳴館と称する。西条侯松平頼淳の賓師となる。	
1754	〃 4	27		父染翁(正長)江戸に来る。三家五姓の和、世間で評判になる。	
1757	〃 7	30		「詩経古伝」の稿本を完成し自序を作る。刊行は2年後の宝暦9年。	
1758	〃 8	31		西条侯松平頼淳が黄檗の僧大鵬禅師(中国僧)と対話し、その通訳を勤める。	
1760	〃 10	33		江戸大火で書物家財焼失。	
1764	明和 1	37		「嚶鳴館詩集」を刊行。上杉治憲(14歳)の賓師となる。	
1767	〃 4	40		嚶鳴館を改築。上杉治憲第9代藩主となる。	
1769	〃 6	42		上杉治憲御国入り。平洲の門人で米沢藩医師藁科松柏没(33歳)。	
1771	〃 8	44		米沢へ行き講義。松島の勝景を見物した。	
1773	安永 2	46	賓師時代	上杉家七重臣騒動起き、治憲肅正する。	
1776	〃 5	49		米沢学館新築完了、平洲興讓館と命名。米沢へ行く。興讓館学則を書く。	
1777	〃 6	50		米沢領内小松村にて領民男女を集めて講話。	
1778	〃 7	51		尾張藩侍医服部草玄(叢桂社同門)が執政人見弥右衛門の意向により平洲を訪ね、尾張藩に仕えるようすすめた。	
1780	〃 9	53		尾張藩御儒者として召され、300俵を賜る。	
1781	天明 1	54	督学時代	八柱神社(東海市)に燈籠を献じた。名古屋に居住する。	
1782	〃 2	55		江戸市谷合羽坂に邸を賜る。藩命により尾張美濃で廻村講話を行う。	
1783	〃 3	56		明倫堂竣工。明倫堂督学兼継述館総裁に任せられる。横須賀・鳴海で廻村講話。	
1784	〃 4	57		尾張中島郡起、美濃羽島郡足近村、安八郡墨俣、同神戸、名古屋市内で講話。	
1785	〃 5	58		明倫堂の東に聖堂を建てる。継述館総裁兼務を辞す。	
1786	〃 6	59		礼剣仰せつけられ(千石以上の待遇)、知行400石を賜る。	
1787	〃 7	60		「群書治要」校本完成。8月、石梁を伴い郷里平島に遊ぶ。	
1792	寛政 4	65		明倫堂督学を辞任する。後任は教授岡田新川(挺之)。	
1796	〃 8	69		自適時代	米沢へ行く。上杉侯礼遇に力をつくす。
1797	〃 9	70			70の賀宴。治憲始め東西の大家から寿詩を寄せらる。
1799	〃 11	72	尾張藩主徳川宗睦没(67歳)。平洲嘆じて「わが事おわれり」と。		
1801	享和 1	74	平洲没す。浅草天嶽院に葬る。法名、秀学院博誉清徳浄道居士。		
1807	文化 4		門人ら、「平洲先生旧里碑」を神明社(現東海市荒尾町)境内に建てる。		
1808	〃 5			治憲の命により準備していた「嚶鳴館遺稿」を刊行。	
1835	天保 6			「嚶鳴館遺草」刊行。	
1900	明治 33			小島新吉、平洲彰徳会を組織し、平洲100年祭を執行。	
1910	〃 43			上野村平洲会設立。同会により平洲110年祭を執行。	
1919	大正 8			高瀬代次郎が大著「細井平洲」(平洲学の基本文献)を著す。	
1935	昭和 10			文部省、米沢市の羽黒神社と普門院を敬師史跡に指定。	
1974	〃 49			平洲ゆかりの地である神明社境内に東海市立平洲記念館設立。	
1980	〃 55			平洲180年祭を執行。東海市教育委員会「道徳平洲先生」を刊行。	
1990	平成 2			平洲没後190年を記念して、『東海市民の誇り・細井平洲』を刊行(市内全戸に配布)。	
1994	〃 6			東海市教育委員会「中学生の描いた細井平洲」(版画)を刊行。東海市オリジナル作品丸目京之介作・演出「ファンタスティックドラマ細井平洲」を公演。	
1995	〃 7			東海市が「21世紀の人づくり心そだて」を統一テーマにして『平洲サミット』を開催。東海市教育委員会が、小野重仔著「細井平洲『小語』注釈」を刊行。	
1996	〃 8			第1回平洲賞工ッセイ募集(テーマ：先生)。米沢市でサミット開催。	
	〃 〃			東海市教育委員会が、小野重仔著『嚶鳴館遺稿』注釈・米沢編』を刊行。以後、毎年、平洲賞・サミット・「嚶鳴館遺稿」注釈の開催及び刊行を実施。	
2000	〃 12			平洲没後200年。平洲賞・サミット・平洲記念館増築オープン。鷹山と平洲の関わりから、山形県米沢市と東海市が姉妹都市提携。	
2007	〃 19			嚶鳴フオーラム開催。	
2010	〃 22			平洲没後210年。記念講演を行う。平洲会設立100周年。	
2014	〃 26			山形県米沢市関根の普門院境内に「平洲・鷹山対面の像(敬師の像)」を設置。	
2015	〃 27			名鉄太田川駅前に「平洲・鷹山対面の像(勇の像)」を設置。	

「平洲マップ」

発行：東海市教育委員会 社会教育課
1993.11発行 2019.3改訂

〒476-8601 愛知県東海市中央町一丁目1番地

☎052-603-2211
☎0562-33-1111